

資料2 SSH 4 年次研究発表会資料

SSH（スーパーサイエンスハイスクール）第4年次研究成果発表会（2期）

中等教育研究協議会

「サイエンス・リテラシーを育む協同的探究学習」

－2期4年目の検証・生徒の学びを測る－

名古屋大学教育学部附属中・高等学校

主催 名古屋大学教育学部附属中・高等学校

後援 愛知県教育委員会

後援 名古屋市教育委員会

*** ご 案 内 ***

本年も、こうして本校の公開研究発表会のご案内を差し上げられますことを、大変嬉しく存じます。本校は、2006(平成18)年度に文部科学省から「SSH（スーパーサイエンスハイスクール）」の指定を受け、中間評価では四段階の最高ランクの評価を頂いて、第Ⅰ期の五年間を無事終えました。その活動が評価されて、あらためて第Ⅱ期の指定を受け、2011（平成23）年度から五年間継続することになりました。幸いにも、第Ⅱ期においても中間評価で再び最高ランクの評価を受けることができました。今年度は、発表内容を、生徒の学びを測るための評価方法に焦点をあて、第Ⅱ期の第四年次（通算して九年間）の研究成果をみなさまにお示しすることともに、更なる次の発展段階を模索することを目指しております。

本校の教育活動には、「総合人間科」、「中高一貫教育」、「高大連携・接続」、「ユネスコスクール」、さらに近年では「国際化」（本年度は、スーパーグローバルハイスクール・アソシエイトの指定を受けています）など、実に、多様な要素・背景が存在しています。これらはその都度、文部科学省の教育課程開発のための研究指定などを受けて取り組まれてきたものですが、本校では、その都度のテーマによって研究の取り組みを大幅に変更してしまうのではなく、新しい取り組みは、それまでの取り組みの基盤の上に進めることとし、それまでの取り組みをいっそう厚く、深いものにしてきました。つまり本校では、これらの要素や背景のすべては、分ちがたい形で関連し合っており、生徒たちはその中で、多様で豊かな学習体験を深めてきています。

ともすれば、高校での授業は、記憶と想起を中心とした大学受験対応のためだけのものになりがちですが、本校の授業は、教科の本質を協同で追求していくことを目指しており、大学に入るためのものではなく、本学に入ってから活躍できるよう力をつけることを目標としてきました。それは、とりもなおさず、これから自分たちが生きていく社会を見つめながら、主体的な進路選択を行なうためのものであると言えます。本校のSSHの活動が、単に自然科学だけを対象とするのではなく、それをより深く考えるために社会科学や人文科学までも包含した「サイエンス・リテラシー」の形成を目指すものになっているのは、そのためでもあります。

この機会に、一人でも多くの方々に、こうした本校の取り組みの一端をご覧頂き、ご指導・ご批判を頂戴できますことを、心より願っております。

2014（平成26）年12月

名古屋大学教育学部附属中・高等学校長
植田健男

名古屋大学教育学部附属中・高等学校

SSH（スーパーサイエンスハイスクール）第4年次研究成果発表会（2期）

中等教育研究協議会

サイエンス・リテラシーを、「現実社会におけるさまざまな問題について知識を活用して情報を多元的に分析し、論点を関連づけながら本質を理解する力」である、と定義しました。本質を理解する過程では、自らの考えを他者に伝え、話し合うことを通じて、協同解決をはかり、個人がさらに思考や理解を深める力も必要です。よって、本校の定義するサイエンス・リテラシーは、幅広いサイエンスの領域におけるリテラシーを意味しています。

- A) 探究を通じてものごとの本質を深く理解する力 B) 物事を論理的・多元的・長期的に考える力
C) 自らの考えを他者に対して表現できる力 D) 問題を設定し、他者と協同して解決する力

1 主 題 「サイエンス・リテラシーを育む協同的探究学習」

ー 2期4年目の検証・生徒の学びを測るー

2 期 日 2015年2月10日 (火)

3 日 程

9:00 9:30 10:00 10:10 11:00 12:00 13:00 14:00 14:15 15:15

受付	全体会		公開授業	昼食	授業検討会		評価方法実践報告会
			ポスターセッション				

4 会 場

全体会 交流ホール

公開授業 各教室

授業検討会 各教室

評価方法実践報告会 交流ホール

5 内 容

(1) 全体会 9:30~10:00

開会挨拶 名古屋大学 理事・副総長 鯨京正訓

名古屋大学 教育学部長 松田武雄

基調報告 (研究の概要) 研 究 主 任 三小田博昭

(2) 公開授業

* 10:10 ~ 11:00

学年	科目・課題	ねらい	授業内容	授業者
中学 3年	①数学	アプローチの仕方に多様性がある問題に取り組み、それらを比較することで、既有知識をつなげ概念的理解を深める。	関数と図形の融合問題を題材に、協同的探究学習を行う。	松本真一
高校 2年	②現代文	他者を説得できるだけの、公共性のある意見文を書く力を身につけさせる。「書く」領域における、これまでの学習の総まとめも目指す。	本校国語科教員で執筆した『はじよう、ロジカル・ライティング』（ひつじ書房）を教材として、協同的探究学習を行うことを試みる。	加藤直志

* 10:10 ~ 12:00

学年	科目・課題	ねらい	授業内容	授業者
高校 1年	③SLPⅡ 「自然と科学」	科学の様々な側面を知り、英語で発表することにより、コミュニケーションを付ける。	「マジックミラー」、「第二の地球は存在するのか」、「自然科学と数学」、「775年に何が起きたか」のテーマについて、英語で発表する。	佐藤愛子 竹内史央 大羽 徹
高校 2年	④化学基礎	金属が反応する様子を実際に観察し、その変化を化学反応式として理解することで、金属の酸化還元反応を学ぶ。	前半は実験を行い、後半はその実験結果からわかることを各班でまとめ、発表を行う。実験結果から各班がどのように考察を導き出し、自分たちの言葉でまとめるかに重点を置いて行う。	石川久美
高校 3年	⑤SLPⅡ 「共生と平和の科学」	自分自身の明確な考えに基づき、他の生徒との対話を通して、全体でコンセンサスを形成する。	「共生と平和」のために、何ができるかを「子どもの人権」「ジェンダー」「貧困と国際理解」の各立場から、参加型ワークを通して探究する。	三小田博昭 中村明彦 原 順子

(3)ポスターセッション 11:00~13:00

SSH課題研究などの研究内容についての生徒によるポスター発表

(4)授業検討会 13:00～14:00

	分科会名	テーマ	協議内容	発表者	助言者
A	数学	数学における協同的探究学習	数学において、協同的探究学習法を取り入れた授業をよりよくする工夫について話し合い、意見交換を行う。	松本真一	東京大学大学院 教育学研究科 藤村宣之先生
B	国語	文章の指導における協同的探究学習	これまでの協同的探究学習の実践が、『はじめよう、ロジカル・ライティング』（ひつじ書房）の指導にどのように生かせるか考える。	加藤直志	名古屋大学大学院 教育発達科学研究科 橘 春菜先生
C	SLP II	SSH教科「SLP II」における「ねらい」と「生徒の学び」	前半は、「SLP II（自然と科学）（共生と平和の科学）」全体のねらいについて報告を行う。後半は、「自然と科学」「共生と平和の科学」それぞれに分かれ参加者とともに意見交換を行う。	佐藤愛子 竹内史央 大羽 徹 三小田博昭 中村明彦 原 順子	名古屋大学大学院 教育発達科学研究科 高井次郎先生
D	理科	理科における協同的探究学習	前半は化学基礎の公開授業の振り返りを行う。後半は中学も含めて、その他の協同的探究学習の実践例を報告する。概念理解を深めるには、どのような取り組みが有効であるか意見交換を行う。	石川久美 中村 忍 齋藤 瞳	名古屋大学大学院 教育発達科学研究科 石井秀宗先生

(5)評価方法実践報告会

14:15～15:15

報告者：大羽 徹 今村敦司

従来型のアンケートによる評価と、PISA調査を活用し、独自の分析基準を作成した記述型の思考力調査により、本校のSSH全体目標の力がついたかを客観的に測る手法を開発した。その組織を報告する。

させていただきます。最新情報は本校Webページでお知らせ致します。

また、公開授業中のビデオやカメラでの撮影はご遠慮下さい。

<会場案内>

本校の駐車場はありませんので、公共交通機関でお越しください。地下鉄名城線「名古屋大学」3番出口より徒歩5分です。（地図を参照してください。）

6 申し込み方法

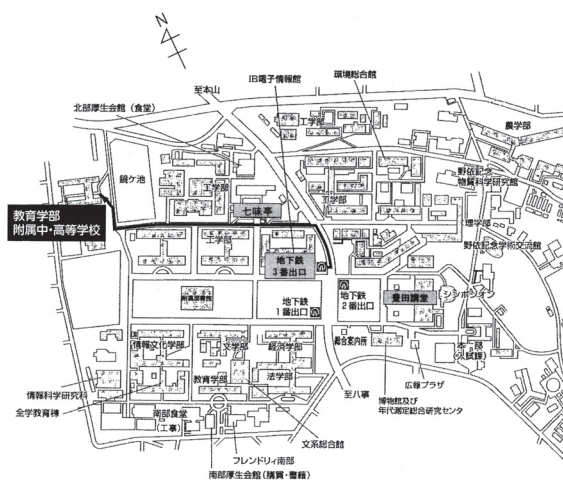
(1)方法：参加申込書にご記入の上、郵送またはFAXでご連絡ください。本校のホームページからも申し込みできます。（参加費は無料です）

(2)締め切り：1月30日（金）

(3)送り先：〒464-8601 名古屋市千種区不老町
名古屋大学教育学部附属中・高等学校
SSH研究発表会事務局宛
TEL：(052) 789-2680、2681
FAX (052) 789-2696
URL <http://highschl.educa.nagoya-u.ac.jp/>
E-mail: kenkyu@highschl.educa.nagoya-u.ac.jp

(4)その他

インフルエンザ等により学級閉鎖になるクラスが発生した場合は、当該クラスの公開授業を中止



公開授業教科 年間授業計画

① 中学3年生 数学 「関数と図形」

1. 授業日時： 平成27年2月10日（火）第1限（10：10～11：00）
2. 場 所： 中学3年B組
3. 対象生徒： 中学3年B組（40名）
4. 授 業 者： 松本 真一
5. 年間授業目標： 数学的活動を通して、数量や図形などに関する基礎的な概念や原理・法則についての理解を深め、数学的な表現や処理の仕方を習得し、事象を数理的に考察し表現する能力を高めるとともに、数学的活動の楽しさや数学のよさを実感し、それらを活用して考えたり判断したりしようとする態度を育てる。
6. 年間授業計画：

時期	単元	学習目標	学習内容	学習方法	評価方法
4月	第1章 式の計算	<ul style="list-style-type: none"> ・多項式の展開の公式を理解し、それらを利用することができる。 ・因数分解の公式を理解し、それらを利用することができる。（B、C） ・式の計算を利用して、数や図形の性質を考えることができる。 	1 多項式の計算 2 因数分解 3 式の計算の利用 4 素因数分解	協同的探究学習	小テスト ワークシート
5月	第2章 平方根	<ul style="list-style-type: none"> ・平方根の必要性和意味を理解する。数を分類することができる。 ・根号を含む式の四則計算ができ、いろいろな式の計算ができる。（B） 	1 平方根 2 根号をふくむ式の乗法と除法 3 根号をふくむ式の加法と減法 4 いろいろな計算	協同的探究学習	ワークシート
6月					前期中間テスト
7月	第3章 2次方程式	<ul style="list-style-type: none"> ・2次方程式とその解の意味を理解し、解くことができる。 ・数の性質や面積の問題などを2次方程式を利用して解くことができる。（A、B） 	1 2次方程式とその解 2 2次方程式の解き方 3 2次方程式の利用	協同的探究学習	整理テスト ワークシート
9月	第8章 標本調査 第4章 関数 $y=ax^2$	<ul style="list-style-type: none"> ・標本調査を利用して、母集団の状況を推定することができる。 ・具体的な事象の中から関数 $y=ax^2$ を見出し、式やグラフを利用して問題を解決することができる。（B、D） 	1 母集団と標本 2 標本調査の活用 1 2乗に比例する関数 2 $y=ax^2$ のグラフ 3 $y=ax^2$ の利用 4 いろいろな関数	協同的探究学習	ワークシート 前期期末テスト
10月					
11月	第5章 相似	<ul style="list-style-type: none"> ・三角形の相似条件について理解し、証明などに利用することができる。 ・平行線と線分の比、角の二等分線を理解し、利用することができる。（A、B） ・相似な立体について、相似比と表面積の比、体積の比の関係を理解し、利用することができる。 	1 相似な図形 2 平行線と線分の比 3 中点連結定理 4 面積の比、体積の比	協同的探究学習	ワークシート

12月	第6章 円	・円周角の定理、接線との関係などを利用して、いろいろな問題を解くことができる。(C、D)	1 円周角の定理 2 円周角の定理の逆 3 円の性質の利用	協同的探究学習	ワークシート
1月	第7章 三平方の定理	・三平方の定理を理解し、直角三角形との関係性を見出すことができる。 ・三平方の定理を利用して、空間図形における線分の長さを求めることができる。	1 三平方の定理 2 三平方の定理の逆 3 三平方の定理の利用(平面) 4 三平方の定理の利用(空間)		実力テスト
2月	総合演習	【本時】 ・関数と図形のそれぞれの性質を理解し、その融合問題を解くことができる。(A、B、C、D) ・三角形の五心の性質を理解し、活用して問題を解くことができる。	1 関数と図形 2 三角形 3 整数	協同的探究学習	ワークシート
3月					学年末テスト

A) 探究を通じてものごとの本質を深く理解する力
C) 自らの考えを他者に対して表現する力

B) 物事を論理的、多元的かつ長期的に考える
D) 問題を設定し、他者と協同して解決する力

②高校2年生 現代文 「データの読み取りを踏まえた意見文を書く」

1. 授業日時： 平成27年2月10日(火) 第1限(10:10～11:00)
2. 場 所： 高校2年A組
3. 対象生徒： 高校2年A組(40名)
4. 授 業 者： 加藤 直志
5. 年間授業目標： 論理構造などに注意して、評論文を読解する力を身につけさせる。
語りの方法などに注意して、小説を読解する力を身につけさせる。
近現代の詩歌について知る。
評論文や小説などの読解を通じて、「近代」について考えさせる。
他者の意見やデータの読み取りを踏まえた上で、意見文を書く練習をする。
6. 年間授業計画：

時期	単元	学習目標	学習内容	学習方法	評価方法
4月	評論(政治思想論)	政治思想論を読解する。 (A)(B)(C) 言語知識を身につける。 (A)	日野啓三 「市民のイメージ」	板書と発問を中心に、協同的探究学習も織り交ぜる。	前期中間テスト ワークシート 発表内容
5月	評論(貨幣論)	やや抽象的な貨幣論を読解する。 (A)(B)(C) 言語知識を身につける。 (A)	岩井克人 「ホンモノのおカネの作り方」	板書と発問を中心に、協同的探究学習も織り交ぜる。	
6月	小説	語りの方法などに注意しながら、登場人物の心理変化を読解する。 (A)(B)(C) 言語知識を身につける。 (A)	中島敦 「山月記」	板書と発問を中心に、協同的探究学習も織り交ぜる。 単元の終わりに、協同的探究学習を本格的に実施する。	

7月	詩歌	修辞法などに注意しながら韻文を読解する。(A) 言語知識を身につける。(A)	吉原幸子 「パンの話」 宮澤賢治 「永訣の朝」	板書と発問を中心に、協同的探究学習も織り交ぜる。	前期期末テスト 発表内容
8月 9月	夏期課題 意見文①	意見文についての、これまでの復習をする。(B) (C)	『はじめよう、ロジカル・ライティング』第一章・第二章	『はじめよう、ロジカル・ライティング』を読み、章末の練習問題を解いて、提出させる。 9月の授業で解説する。	提出物
10月	小説	語りの方法や小説が発表された時代の状況などに注意しながら、登場人物の心理変化を精読する。(A) (B) (C) 言語知識を身につける。(A)	夏目漱石 「こころ」	板書と発問を中心に、協同的探究学習も織り交ぜる。	後期中間テスト 発表内容
12月	冬期課題 意見文②	意見文についての、これまでの復習をする。(B) (C)	『はじめよう、ロジカル・ライティング』第三章・第四章	『はじめよう、ロジカル・ライティング』を読み、章末の練習問題を解いて、提出させる。 1月の授業で解説する。	提出物
1月	意見文③	データを用いた立論について学ぶ。(A) (B) (C) (D)	『はじめよう、ロジカル・ライティング』第九章	『はじめよう、ロジカル・ライティング』を用いて、データを用いた立論について学ばせる。協同的探究学習を実施する。	ワークシート 発表内容
2月	評論（政治思想論）	政治思想論を読解する。(A) (B) (C) 言語知識を身につける。(A)	丸山真男 「「である」ことと「する」こと」	板書と発問を中心に、協同的探究学習も織り交ぜる。	学年末テスト 発表内容
3月	評論（身体論）	身体論を読解する。(A) (B) (C) 言語知識を身につける。(A)	野村雅一 「身体像の近代化」	板書と発問を中心に、協同的探究学習も織り交ぜる。	

『育てる力』 A) 探究を通じてものごとの本質を深く理解する力 B) 物事を論理的、多元的かつ長期的に考える力
C) 自らの考えを他者に対して表現する力 D) 問題を設定し、他者と協同して解決する力

③高校1年生 SLPⅡ 「自然と科学」

1. 授業日時： 平成27年2月10日（火）第1、2限（10：10～12：00）
2. 場 所： 第3総合教室
3. 対象生徒： 高校1年C組（41名）
4. 授 業 者： 大羽 徹、竹内 史央、佐藤 愛子
5. 年間授業目標： 科学の様々な側面を知り、英語で発表することにより、コミュニケーション力をつける。
6. 後期授業計画：

	竹内	大羽	佐藤
10月14日	ガイダンス、グループ分け		
10月21日	マジックミラー	第二の地球は存在するのか	科学英語
10月28日	愛知教育大学 高橋先生 「太陽系の形成と進化」 (A、B)		

11月4日	愛知教育大学 高橋先生 「太陽系外惑星」(A、B)		
11月11日	マジックミラー	第二の地球は存在するのか	科学英語
11月18日	マジックミラー	第二の地球は存在するのか	科学英語
11月25日	自然科学と数学	775年に何が起きたのか －4つの仮説について－	プレゼンテーション英語
12月9日	自然科学と数学	775年に何が起きたのか －4つの仮説について－	プレゼンテーション英語
12月16日	自然科学と数学	775年に何が起きたのか －4つの仮説について－	プレゼンテーション英語
1月20日	発表準備 (A、B、C、D)		
1月27日	発表準備 (A、B、C、D)		
2月3日	発表準備 (A、B、C、D)		
2月10日	研究協議会 (A、B、C、D)		
2月17日	科学観	ヒミコとオロチ 巨大モンスター銀河の謎	クリティカル・シンキング
3月3日	科学観	ヒミコとオロチ 巨大モンスター銀河の謎	クリティカル・シンキング
3月10日	科学観	ヒミコとオロチ 巨大モンスター銀河の謎	クリティカル・シンキング
3月17日	事後アンケート		

A) 探究を通じてものごとの本質を深く理解する力
C) 自らの考えを他者に対して表現する力

B) 物事を論理的、多元的かつ長期的に考える
D) 問題を設定し、他者と協同して解決する

④高校2年生 化学基礎 「酸化還元反応」

1. 授業日時： 平成27年2月10日(火)第1、2限(10:10～12:00)
2. 場 所： 高校2年生B組教室
3. 対象生徒： 高校2年B組(39名)
4. 授 業 者： 石川 久美
5. 年間授業目標： 化学的な事物・現象についての観察、実験などを行い、自然に対する関心や探究心を高め、化学的に探究する能力と態度を育てるとともに基本的な概念や原理・法則を理解させ、科学的な自然観を育成する。
6. 年間授業計画：

時期	単元	学習目標	学習内容	学習方法	評価方法
4月	第1編 物質の構成と化学結合 第1章 物質の構成 第2章 物質の構成粒子	・原子、イオンの構造を理解する。 ・周期表から、その規則性を読み取り、電子配置反応性などが分かる。(A、B) ・イオン化エネルギー、電子親和力の意味を理解する。(A、B)	1 原子とその構造 2 イオン 3 周期表	問題演習	小テスト

5月	第3章 粒子の結合	<ul style="list-style-type: none"> ・物質を構成する粒子がどのように結合しているかを理解する。(A、B) ・共有結合からなる物質の分子式、電子式、構造式が書ける。 ・物質を構成する粒子の結合様式を判別できる。(物質名を書いたカードを各班で分類)(A、B、C、D) 	1 イオン結合とイオンからなる物質 2 分子と共有結合 3 分子の極性 4 共有結合の物質 5 金属結合と金属	班活動 分子模型を作成	前期中間テスト 小テスト
6月		<ul style="list-style-type: none"> ・分子の立体構造がわかり、極性があるかどうかを判別できる。(A、B) 			
7月	第2編 物質の変化 第1章 物質と化学反応式	<ul style="list-style-type: none"> ・原子量、分子量、式量、物質量の意味を理解する。(A、B) ・物質の量を表す質量、物質量、個数、体積の換算ができる。(A、B) ・質量%濃度、モル濃度、溶解度がわかり密度を使って換算できる。(A、B) ・化学反応式を書くことができる。 ・化学反応式から量的関係を理解できる。(A、B) ・化学反応の量的関係を自分なりの表現で説明することができる。(A、B、C) ・量的関係に関する問題を自分で作ることができ答えを求めることができる。(A、B、C、D) 	1 原子量・分子量・式量 2 物質量 3 溶液の濃度 4 化学反応式と物質質量	演示実験 夏休み課題	前期期末テスト 小テスト 夏休み明け課題テスト
9月				視覚的教材	
10月				量的関係に関する課題	課題プリント
11月	第2章 酸と塩基の反応	<ul style="list-style-type: none"> ・酸、塩基の定義が分かる。 ・酸、塩基の価数、強弱が分かる。 ・電離度と価数を用いて、水素イオン濃度を計算できる。 ・水素イオン濃度をからpHが計算できる。 ・水のイオン積を理解する。 ・中和反応式が書ける。 ・滴定の原理を理解した上で実験を行い食酢の濃度を求めることができる。(A、B、C、D) ・塩の定義、塩の加水分解を理解する。 ・滴定曲線と指示薬の原理を理解する。 ・中和点が中性にならない場合、その理由を化学反応式を書いて説明できる。(A、B、C) 	1 酸・塩基 2 水の電離と水溶液のpH 3 中和反応 4 塩	班活動による食酢の滴定実験 問題演習	後期中間テスト 実験レポート 小テスト
12月				課題	実力テスト
1月	第3章 酸化還元反応	<ul style="list-style-type: none"> ・酸化、還元、の定義が分かる。(A、B) ・酸化数を使って酸化還元を見分けられる。 ・酸化剤、還元剤の半反応式が書ける。 ・酸化還元の反応式が書ける。 ・酸化還元滴定を理解した上で実験を行い、濃度を求めることができる。(A、B、C、D) 	1 酸化と還元 2 酸化剤と還元剤 3 金属の酸化還元反応 4 酸化還元反応の利用 電池・金属の製錬	演示実験	小テスト 実験レポート
2月					学年末テスト

3 月		本時 ・金属の反応に関する実験を計画して実行し、実験から分かることを考察できる。(A, B, C, D) ・金属のイオン化傾向と反応性の関連が分かる。(A, B) ・日常生活の中で、どのように酸化還元反応を利用しているかを知り、その原理が分かる。(A, B, D)		班活動による実験	
-----	--	---	--	----------	--

A) 探究を通じてものごとの本質を深く理解する力 B) 物事を論理的、多面的かつ長期的に考える
 C) 自らの考えを他者に対して表現する力 D) 問題を設定し、他者と協同して解決する力

⑤高校2年生 S L P II

- 授業日時： 平成27年2月10日（火）第1、2限（10：10～12：00）
- 場 所： 子どもの人権《第2総合教室》・ジェンダー《メディア教室》・貧困と国際理解 《各H.R.》
- 対象生徒： 高校2年C組（39名）
- 授 業 者： 佐藤 良子《共同研究者》 三小田 博昭《英語科》 中村 明彦《体育科》 原 順子《家庭科》
- 年間授業目標：学校目標）人間・自然・社会と関わるサイエンス・リテラシーの育成 ー学びの共有を軸にしてー
授業目標）仮説に基づく情報処理能力の育成
- 年間授業計画：

テーマ			子どもの人権	ジェンダー	貧困と国際協力
内容			子どもの人権に焦点をあて、世界の子たちを垣間見ながら自分たちの今の生活を振り返る	ジェンダーの視点で、差異のあるある集団が共生していくには、どうすればよいかを考える。	「貧困」「国際協力」という課題に向き合い、自分たちがやるべき協力活動を探る。
担当			三小田・佐藤	仲田・佐藤	中村・佐藤
回数	日時				
導 入 (仮定をたてる)					
1	10月	10日	オリエンテーション① Knowing the Diversity 評価の説明 担当 中村		
2		17日	共生と平和の科学とは（佐藤良子先生）		
3		27日	仮説に基づく情報処理能力の育成 第1回目（大谷 尚先生）		
		31日	仮説に基づく情報処理能力の育成 第2回目（大谷 尚先生）		
4	11月	7日	仮説作成 マインドマップ	仮説作成 マインドマップ	仮説作成 マインドマップ
展 開 (検証する)					
5		14日	研究旅行		
6		21日	教員プレゼンテーション・グループ分けアンケート		
7		28日	後期中間試験		
8	12月	5日	子どもの権利条約について	佐藤先生講義 「性差区分の変化」	改めて自分をみつめてみる エゴグラム

9		12日	幸せを測るものさし (貧困と国際協力と合同)	メディアリテラシー① 「海外TVから見えるもの」	幸せを測るものさし (子どもの権利と合同)
10		19日	休業前全校集会		
11	1月	9日	冬休みの課題発表 メディアリテラシー②	冬休みの課題発表 メディアリテラシー②	冬休みの課題発表 メディアリテラシー②
12		16日	効果的援助とは①	世界のジェンダー ノルウェーの教科書	国際協力プロジェクトを考える 自分のやりたい協力活動①
ま と め (考察する)					
13		23日	効果的援助とは②	A.A.(アファーマティブアクション) P.A.(ポジティブアクション)	国際協力プロジェクトを考える 自分のやりたい協力活動②
14		30日	集録原稿作成	集録原稿作成	集録原稿作成
15	2月	6日	集録原稿をスピーチ原稿にまとめる	集録原稿をスピーチ原稿にまとめる	集録原稿をスピーチ原稿にまとめる
16		10日	SSH研究成果発表会 C)		
		13日	スピーチ大会(混合小グループで) ① C)		
		20日	学年末試験		
17		27日	スピーチ大会(混合小グループで) ② C)		
18	3月	6日	スピーチ大会(混合小グループで) ③ C)		
19		13日	集録綴じ・アンケート		

上記各授業はA) B) C) 力を各回で育成します。

授業検討会進行予定

ず)
その他

教科：数学

1. テーマ
数学における協同的探究学習
2. 発表者
松本真一
3. 研究協力者
東京大学大学院教育学研究科 藤村宜之先生
4. 協議内容
数学において、協同的探究学習法を取り入れた授業をよりよくする工夫について話し合い、意見交換を行う。
5. 進行予定
 - ・授業者より
本日の授業について(よかったこと、反省点など)
 - ・研究協力者の藤村先生より
数学科における協同的探究学習法について
 - ・質疑応答
既存の教材における協同的探究学習について
本日の授業について(協同的探究学習にかかわら

教科：国語

1. テーマ
文章の指導における協同的探究学習
2. 発表者
加藤直志
3. 研究協力者
名古屋大学大学院教育発達科学研究科 橘春菜先生
4. 協議内容
これまでの協同的探究学習の実践が、『はじめよう、ロジカル・ライティング』(ひつじ書房)の指導にどのように生かせるか考える。
5. 進行予定
 - ・授業者より
協同的探究学習法とは
国語科における協同的探究学習法の実践について
本日の授業について(よかったこと、反省点など)
 - ・質疑応答
国語科における協同的探究学習法について

本日の授業について（協同的探究学習にかかわらず）

その他

・研究協力者の橋先生より

させる具体的な手法として、教授法のひとつである協同的探究学習を授業に取り入れ、実践してきた。協同的探究学習では、生徒が既有知識を活用し、思考過程を他者と共有し、知識の獲得と理解を深めることを目的としている。

公開授業およびこれまでの実践報告を事例として、理科の学習において、どのような場面で協同的探究学習を取り入れると、学びの質を高めることができるのかを協議する。

教科：S L P II

1. テーマ

S S H教科「S L P II」における「ねらい」と「生徒の学び」

2. 発表者

佐藤愛子・竹内史央・大羽 徹・三小田博昭・中村明彦・原 順子

3. 研究協力者

高井次郎先生（名古屋大学大学院教育発達科学研究科）

4. 協議内容

前半は、「S L P II（自然と科学）（共生と平和の科学）」全体のねらいについて報告を行う。後半は「自然と科学」「共生と平和の科学」それぞれに分かれ参加者とともに意見交換を行う

5. 進行予定

(1)実践報告

「自然と科学」公開授業の授業者

「共生と平和の科学」公開授業の授業者

(2)質疑応答

(3)2つの講座に分れて意見交換

(4)全体質疑・応答

(5)研究協力者より助言（高井次郎先生）

5. 進行予定

(1)公開授業の振り返り

(2)本校における協同的探究学習

(3)理科における協同的探究学習の実践報告

(4)質疑・応答

(5)研究協力者より助言（石井秀宗先生）

教科：理科

1. テーマ

理科における協同的探究学習

2. 発表者

石川久美・中村忍・斎藤瞳

3. 研究協力者

石井秀宗先生（名古屋大学大学院教育発達科学研究科）

4. 協議内容

本校ではS S H研究において、サイエンスリテラシーの育成を課題としている。その力を生徒に付け